

各市町、県の取組内容

【宍粟市】 自主防災マップ作成講習会の実施について

資料2-3

○避難に関する啓発活動について（計画規模洪水を対象としたマイ防災マップ等の更新、作成支援）
計画規模洪水を対象に、市内で自主防災マップの作成・更新講習会を実施

参加自主防災会：53自主防災会 延べ162名

- ・宍粟市では、揖保川、千種川で氾濫が発生した際に、浸水リスクがある地区を対象とした、自主防災マップ作成のための講習会を実施した。（平成29年度4地区5回）
- ・専門家による説明をうけ、参加した自主防災会の役員等が実際の地図に必要な情報を書き込み、マップ作成の練習を行った。

取組を実施した効果、成果

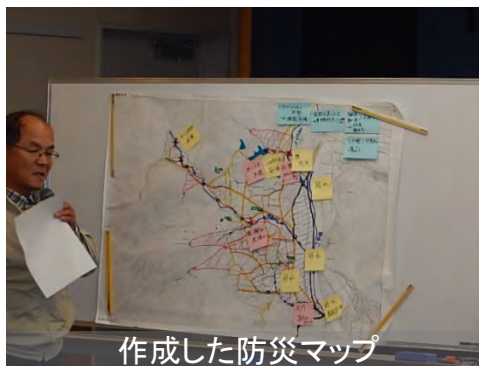
- ・各自主防災会より役員等の参加があり、必要性や使いやすさなどについて再認識された。
- ・講習会后、各自主防災会で「まちあるき」を実施するなど、自主防災マップ作成にむけた活動が活発化。
- ・平成30年度も引き続き、山崎町域などで講習会を開催する予定。



専門家の説明をうける自治会役員



防災マップ作成の様子



作成した防災マップ



防災マップ作成の様子

○想定される浸水リスクの周知(地域住民への水災害教育の実施) 災害時の行動や事前準備などの啓発する『ふれあいミーティング』を実施



4自治会(下町、千草、嵯峨山、下河野)
1団体(身体障害者福祉協会山崎支部)
計 約170名

- ・自治会等からの要請を受けて、安全な避難行動の手順や非常持ち出し袋の準備等、災害に対する備えの重要性について説明を実施。
- ・土砂災害への警戒、避難情報や気象情報等防災情報の収集方法、家族の安否確認の方法などの説明を実施。

取組を実施した効果、成果

- ・地域の危険個所の把握、災害発生時の自身の安全の確保の重要性について周知することができた。
- ・日ごろからの備えとして、避難所・避難経路の事前確認、食料などの備蓄の用意、家族の安全確保の方法などを説明し、意識付けすることができた。

土砂災害に注意する



ガケ崩れ



地中にしみ込んで水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。ガケ崩れは、突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる可能性があるのに注意が必要です。

土石流



山腹や川底の土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されるものをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～30キロで、一瞬にして人家や田などを壊滅させてしまいます。

地すべり



斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動する土の量が膨大であるため、甚大な被害を及ぼします。

前兆現象(少しでも危険や異常を感じたら、避難しましょう)

山鳴りがする



川の水が濁り、流木が混じる

ガケに亀裂がはいる



ガケから水が湧き出している

地面にひび割れができる



斜面から水が湧き出す



雨が降り続けているのに



ふれあいミーティングの様子

【宍粟市】タイムライン(案)の検証及び改善に向けた検討について

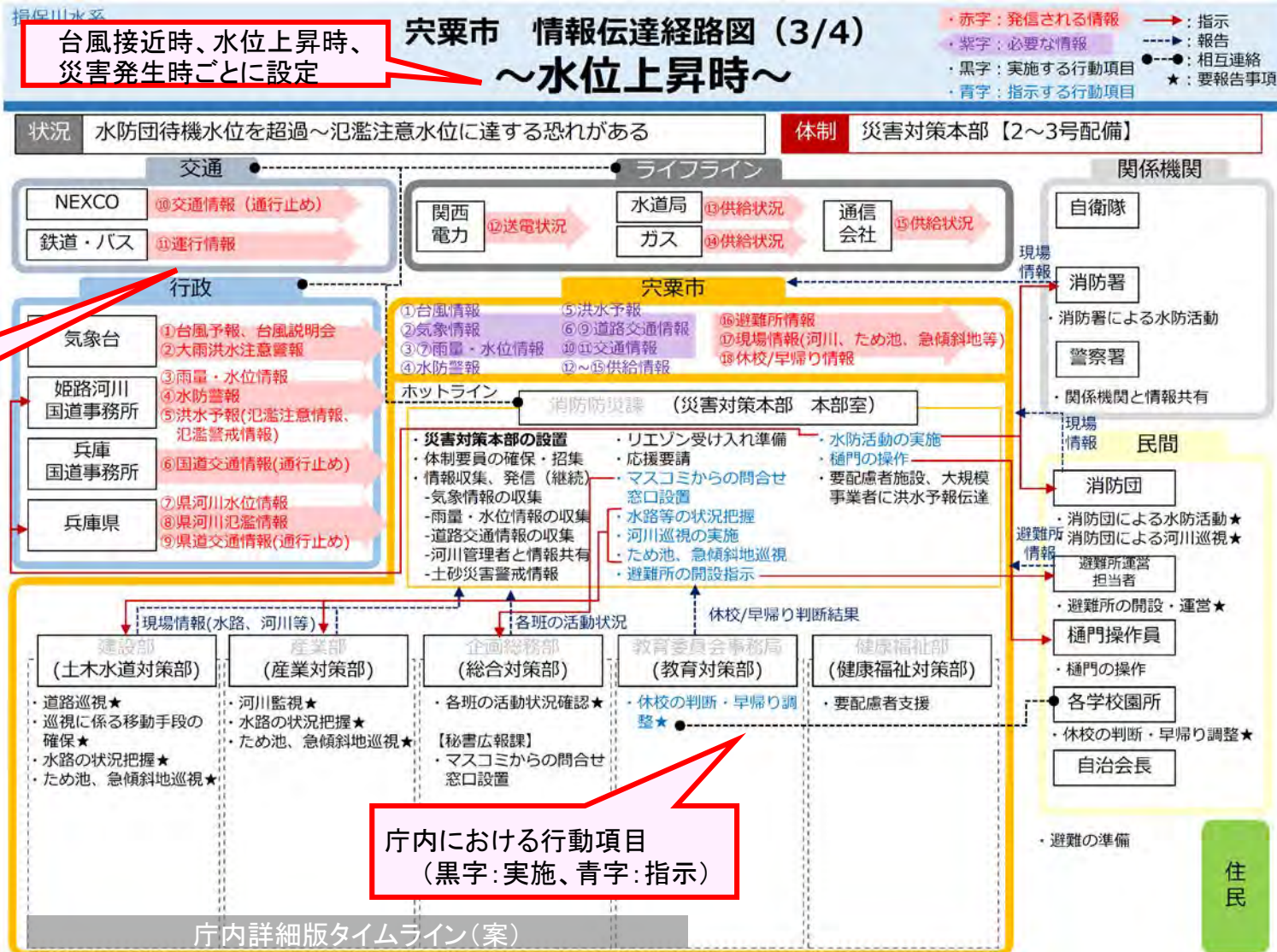
資料2-3

○避難勧告等の発令について

的確な避難行動のための、タイムライン(案)を検証、改善

情報伝達
(赤字: 発信される情報、
紫字: 必要な情報)

台風接近時、水位上昇時、災害発生時ごとの庁内行動項目・情報伝達、行政・多機関との関わりを図化し、詳細版タイムラインの情報伝達経路図を作成した。



取組を実施した効果、成果

庁内詳細版タイムラインにより、フェーズ(状況)ごとに庁内において時系列での対応(「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」)及び災害時の情報伝達ができる。

○避難誘導体制について(情報伝達・避難計画に関する事項) 「自主防災組織で避難誘導にあたる人材」の育成



・自主防災組織においてさらなる人材育成を行った。

◎日時:平成30年3月1日(木)

◎会場:西はりま消防組合たつの消防署3階ホール

◎参加者:市民、ひょうご防災リーダー

◎カリキュラム及び講師等

①「土砂災害に対する兵庫県の取組みについて」
西播磨県民局龍野土木事務所 河川砂防課職員

②「揖保川大規模水害に対する備えの充実について」 国土交通省姫路河川国道事務所 調査課長

③「気象災害と防災気象情報」
日本気象予報士会関西支部 気象予報士

④避難所運営ゲーム「HUG」
兵庫県防災士会 防災士



防災士による避難所運営ゲームの様子



国及び県職員による講義

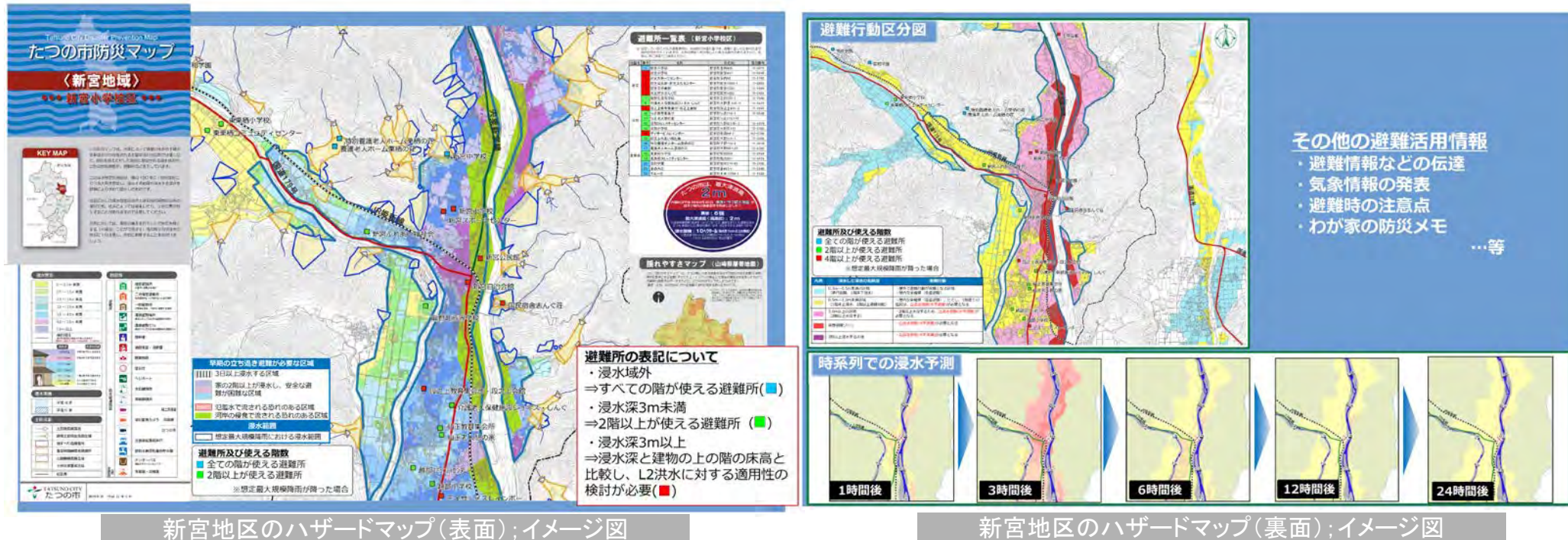
取組を実施した効果、成果

- ・災害時の避難行動の重要性への気づき。(自助力の向上)
- ・気象情報、防災情報を収集し早めに備えることの大切さを知る。(減災意識の向上)
- ・避難所開設時の要配慮者への配慮など、助け合うことの大切さを学ぶ。(共助力の向上)

○想定される浸水リスクの周知

想定最大規模程度の大雨による洪水被害、洪水ハザードマップを検討・作成

全国事例を参考に、たつの市新宮地域をモデルとして、ハザードマップのサンプルを作成した。



取組を実施した効果、成果

- ・市が今後更新する防災マップの基礎データとして活用できる。(浸水リスクの周知)
- ・市民へ提供する防災関連情報の精査ができる。(防災・減災意識の向上)

【姫路市】 小学校における水防教室の実施について

資料2-3

○想定される浸水リスクの周知(水防に関する事項について)

国と協力・連携し、網干小学校の4年生を対象に水防教室を実施

参加機関: 姫路市危機管理室、姫路市消防局
参加者数: 約100人



浸水歩行体験や土のう作成を体験するとともに、自分たちが住んでいる地域の危険性や過去の災害、避難時の注意事項等を併せて教示した。



浸水歩行体験をする、網干小学校児童



土のう作成体験をする、網干小学校児童



取組を実施した効果、成果

幼少年期から水防の知識を習得することで、防災・減災への意識が啓発された。

【姫路市】 市民向け水害チラシの作成配布について

資料2-3

○避難に関する啓発活動について（水防に関する事項について）
水害による被害を軽減するため、市民向けの水害チラシを作成

過去に姫路市で発生した水害の写真や当時の記事を盛り込み、水害に関する情報や姫路市から発信する「ひめじ防災ネット」、スマホアプリへの登録を呼び掛ける内容を記載したチラシを各自治会隣保回覧で周知した。また、姫路市のホームページからもダウンロードできるようにした。



市民向け水害チラシの作成・配布

取組を実施した効果、成果

姫路でも水害は起こり得る災害であることを住民に意識付けることができた。また、ひめじ防災ネットの登録者も増加し、姫路市が発信する避難情報等が確実に伝達できるようになった。

○地域住民及び学校等への水災害教育の実施

浸水リスクのある地域の小学生を対象に、防災に関連した体験授業を実施した。

日時：平成29年11月16日、25日
参加人数：太子町立石海小学校5年生 約120名

①防災授業

[指導：国土交通省姫路河川国道事務所]

- ・防災に関する基礎知識について学ぶクイズや、林田川が氾濫した場合の避難について子供たちが考える防災授業を実施。

②浸水歩行体験・土のうづくり体験

[指導：国土交通省姫路河川国道事務所 太子消防署他]

- ・洪水時の早期避難を目的に、浸水した道路での歩行が困難であることを体験。また、グループに分かれて、土のうを作り、積土のう工法を体験

③避難所体験

[指導：たいし防災リーダー会]

- ・防災リーダーの指導を受けながら、段ボールベッド作り、簡易間仕切りなどの設営作業を学び、避難所開設・設置を体験。

取組を実施した効果、成果

洪水時には、浸水の危険性があることを小学生のうちから認識することで、早期避難の重要性や、地域住民の協力の必要性を学ぶことができ、防災意識を高めることができた。



風水害について授業を受ける児童



段ボールベッド作りを体験する児童

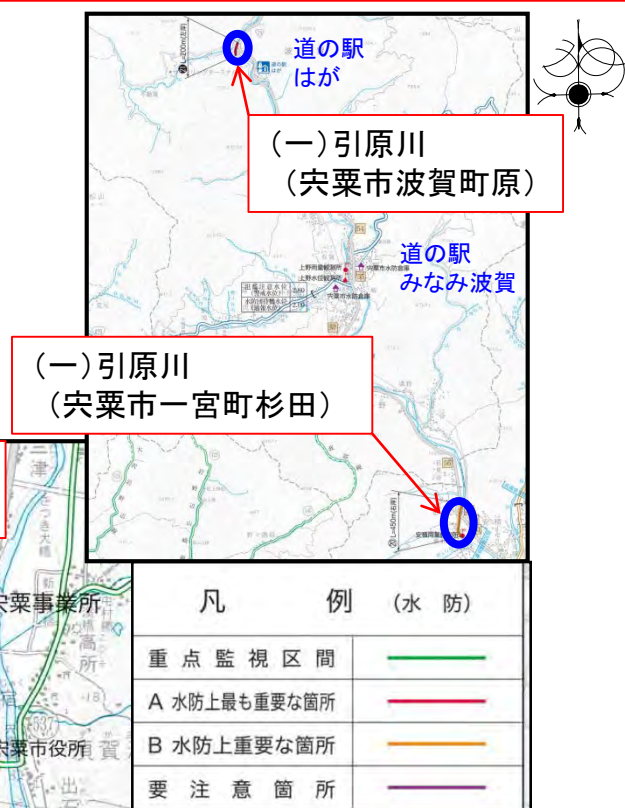
【兵庫県】重要水防箇所共同巡視について

資料2-3

○水防体制（関係者による重要水防箇所等の共同点検を実施）
関係市町との重要水防箇所の共同巡視

重要水防箇所について、関係市町（宍粟市、たつの市）と共同巡視を実施した。

【H29重点監視区間を設置】



取組を実施した効果、成果

- ・ 関係市町と、水害リスクのある箇所を情報共有できた。
- ・ 現地を実際に確認することで、災害発生時に迅速に対応できる。